

27年7月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成27年 7月1日～ 27年7月10日

2. 調査実施方法

全国の国産材製材工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
7月分の回答企業数は17社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

ア. 国産材

(1) 製材用原木荷動き動向 Weight. D. I.

品目		27/7月	8月	9月
入荷動向	スギ	△ 40.9	△ 9.1	0.0
	ヒノキ	△ 50.0	△ 31.3	△ 6.3
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	0.0	0.0	△ 25.0
消費動向	スギ	△ 9.1	0.0	13.6
	ヒノキ	△ 37.5	△ 18.8	△ 6.3
	カラマツ	△ 50.0	△ 50.0	△ 50.0
	トドマツ	0.0	25.0	25.0
在庫動向	スギ	△ 27.3	△ 9.1	4.5
	ヒノキ	△ 42.9	△ 28.6	△ 17.9
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	△ 25.0	△ 25.0	△ 25.0

・スギ原木の入荷は7月及び8月の減少が、9月は横ばい。ヒノキは3ヵ月連続して減少。カラマツは3ヵ月連続して横ばい。トドマツは7月及び8月の横ばいが、9月は減少。

・スギ原木の消費は7月の減、8月の横ばいから9月は増加。ヒノキ及びカラマツの消費は3ヵ月連続して減少。トドマツは7月の横ばいから8月及び9月は増加。

・スギ原木の在庫は7月及び8月の減少が、9月は横ばい。ヒノキ及びトドマツは3ヵ月連続して減少。カラマツは3ヵ月連続して減少。

(2) 製材原木価格動向 Weight. D. I.

品目	27/7月	8月	9月
スギ	4.5	22.7	31.8
ヒノキ	△ 12.5	25.0	15.6
カラマツ	0.0	0.0	0.0
トドマツ	0.0	0.0	0.0

・スギの原木価格は強含みで推移。ヒノキは7月の弱保合から8月及び9月は強含みで推移。カラマツ及びトドマツは3ヵ月連続して横ばい。

モニターからのコメント

(原木荷動き)

- ・今年例年と異なり降雨量が少なく、原料の入荷は順調、トドマツには荷余り感がある。特に5月中旬から産業用途向けの需要も減少し、製材工場の使用量も減っている。
- ・今月下旬より新工場稼働でトドマツの消費やや増加。生産量上がるため在庫は減る見込み。
- ・時期的に出材減のため入荷減。製品在庫があるので製材減産。
- ・ヒノキ入荷、消費、在庫は、大きく変わらない様子。
- ・スギ、ヒノキとも出材が多少減ってきた。スギは「多少」より「かなり」減か。6月末から多少荷動きが好転しかける。入荷が減っている分在庫も減少。
- ・市場への出材量減、9月以降持ち直す見込み。製材総量は変わらず。スギ製材は注文分増。在庫総量減少、9月以降持ち直す見込み。
- ・梅雨で出材減少、来月は持ち直すと思う。消費は操業度落とせないため(コスト増となる)横ばい。ヒノキ丸太少なく反発の恐れがあるのでは。
- ・当初の予定より梅雨の影響があり、(特に九州南部)入荷は若干少ない。消費は大手メーカーの生産調整次第。
- ・7月、8月は梅雨の関係で入荷やや減少、9月は記念市多数でやや入荷は増加。生産は変わらず。
- ・南九州は長雨でスギ入荷減少、消費は梅雨明け後は多少多くなるのでは。
- ・梅雨による長雨の影響で入荷は減少傾向。天候の回復と同時に材は出ていくと思う。

(原木価格)

- ・トドマツ高値安定。造材業者が素材公売を落札。
- ・出材減で市況が好転、価格上昇。
- ・天候次第で変わるが、ヒノキ丸太は大きくは変化しない見込み。
- ・スギ、ヒノキの丸太少ないが、価格に勢いが無い。
- ・スギ、ヒノキともかつてないレベルまで下がった。そろそろ底打ちか。
- ・買い気は低い、市場の原木量少なく横ばい傾向。
- ・天候の影響で荷動きに関係なく価格は上がえいつつある。ある程度荷動きが良くなれば、更に価格上昇が見込めるのでは。
- ・ヒノキは梅雨のため出材減少、原木価格やや上昇。
- ・入荷量と製品の動向にもよるが、材質の時期も良くなるにつれ上がっていく見通し。

27年7月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 2

(3) 製材品荷動き動向 Weight. D. I.

品目		27/7月	8月	9月
生産動向	スギ	△ 13.6	△ 13.6	13.6
	ヒノキ	△ 18.8	△ 18.8	6.3
	カラマツ	△ 50.0	△ 50.0	△ 50.0
	トドマツ	25.0	0.0	0.0
出荷動向	スギ	△ 4.5	△ 13.6	18.2
	ヒノキ	△ 12.5	△ 25.0	0.0
	カラマツ	△ 50.0	△ 50.0	△ 50.0
	トドマツ	0.0	0.0	25.0
在庫動向	スギ	△ 4.5	△ 9.1	△ 9.1
	ヒノキ	△ 25.0	△ 12.5	△ 18.8
	カラマツ	△ 50.0	△ 50.0	△ 50.0
	トドマツ	25.0	0.0	0.0

・スギ及びヒノキ製材品の生産は7月及び8月の減少が、9月には増加。カラマツは3ヵ月連続して減少。トドマツは7月の増加が、8月及び9月は横ばい。

・スギ製材品の出荷は7月及び8月の減少が、9月は増加。ヒノキは7月及び9月の減少が、9月は横ばい。カラマツは3ヵ月連続して減少。トドマツは7月及び8月の横ばいが、9月は増加。

・スギ、ヒノキ及びカラマツ製材品の在庫は3ヵ月連続して減少。トドマツは7月の増加が、8月及び9月は横ばい。

(4) 製材品出荷価格動向 Weight. D. I.

品目		27/7月	8月	9月
スギ	柱角 KD10.5×3	△ 20.0	△ 10.0	5.0
	柱角 KD12×3	△ 13.6	△ 13.6	0.0
	通し柱 12×6	△ 14.3	△ 14.3	△ 7.1
	桁角	△ 15.0	△ 10.0	△ 10.0
	母屋角	△ 20.0	△ 15.0	△ 15.0
	タルキ	△ 16.7	△ 16.7	△ 11.1
	間柱	△ 15.0	△ 15.0	△ 5.0
	ヌキ	△ 18.8	△ 18.8	△ 12.5
	平割	△ 18.8	△ 18.8	△ 18.8
	ラミナ	△ 12.5	△ 12.5	△ 12.5
ヒノキ	柱角 KD10.5×3	△ 27.8	△ 22.2	△ 11.1
	柱角 KD12×3	△ 25.0	△ 18.8	△ 6.3
	土台角 10.5×4	△ 33.3	△ 22.2	△ 5.6
	土台角 12×4	△ 33.3	△ 16.7	△ 5.6
	通し柱 12×6	△ 30.0	△ 20.0	0.0
ラミナ	△ 37.5	△ 37.5	△ 37.5	
カラマツ土台角10.5×4	—	—	—	
〃 梱包仕組み板	△ 50.0	△ 50.0	△ 50.0	
〃 ラミナ	△ 50.0	△ 50.0	△ 50.0	
トドマツサンギ	—	—	—	

・スギ製材品の出荷価格は総じて弱含み、一部保合。

・ヒノキ製材品の出荷価格は総じて弱含み。

・カラマツ梱包仕組み板及びラミナは弱含み。

モニターからのコメント

(製材品荷動き)

・トドマツは相変わらず荷動き悪い。生産品目を変えながら生産。受注が上向かず特注サイズの問い合わせ多い。生産量増により在庫増える。

・当分、減産体制。8月よりやや引合い増が期待される。減産、出荷増のためやや在庫減。

・ヒノキの生産は9月から少し増やす(在庫調整の目途がついた)。出荷は大きく変わらない。在庫は8月までは少し減らす。

・スギは大口注文が入る予定(公共工事)、ヒノキは変わらず(半製品の在庫がしっかりあるので)。盆明け以降、年末に向かって徐々に荷動きが好転する。スギは出荷が比較的堅調なため在庫が減ってきている。ヒノキは製材を絞っているため在庫は少しずつ減少。

・生産稼働日数変えず。出荷量は回復、やや増加傾向。在庫量はやや減少。

・スギ、ヒノキの生産操業度は安定、出荷は多少問い合わせが増えたように感じる。ヒノキ製品在庫は極少状態。

・生産変わらず、販売不振。

・スギの生産は大手製材メーカー、合板メーカーの生産調整次第。スギ出荷はホワイトの不足感がどれだけ反映されるかだが、未だ見えず。スギ在庫はメーカーによってまちまちだが、ここに来て在庫不足感を出すメーカーを耳にする。

・梅雨に入り、雨が多く、現場が遅れていたり、まだまだ住宅着工も増えていない。在庫は生産調整しているため増やさないようにしている。

(製材品出荷価格動向)

- ・トドマツサンギは荷動き悪くも先々仕事はある。原木からみても下がる要素なし。
- ・スギは引き合いは増加するが、価格上昇は無理。ヒノキは需要が増えないので、価格上昇は見込めない。
- ・ヒノキの単価は変えない。
- ・スギは何とか価格を上げて行きたい。ヒノキは丸太が底を打てば極端な安売りがなくなり、多少上がる(戻す)のでは。
- ・スギ、ヒノキとも製品価格は現状底値、出荷量は増えて来ているが、需要に盛り上がりなく横ばいが続く。
- ・ヒノキは販売不振でやや下落。
- ・スギ製品が値下がり中、特に3mの120×120mm売りづらい。ヒノキの高値がなくなった。スギと同値もしくはそれ以下であれば買ってくれる。

27年7月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 3

イ. 外材

(1) 製材用原木の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		27/7月	8月	9月
仕入動向	米マツ丸太	0.0	0.0	0.0
	NZラジアータ	0.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—
消費動向	米マツ丸太	0.0	△ 50.0	50.0
	NZラジアータ	0.0	50.0	50.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—
在庫動向	米マツ丸太	0.0	50.0	△ 50.0
	NZラジアータ	0.0	0.0	△ 50.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—

- ・米マツ及びNZラジアータ丸太の入荷は3ヵ月連続して横ばい。
- ・米マツ丸太の消費は7月の横ばいが、8月は減少、9月は増加。NZラジアータ丸太の消費は7月の横ばいが8月及び9月は増加。
- ・米マツ丸太の在庫は7月の横ばいが、8月は増加、9月は減少。NZラジアータ丸太の在庫は7月及び8月の横ばいが、9月は減少。

(2) 製材用原木等購入価格動向 Weight. D. I.

品目	27/7月	8月	9月
米マツ丸太	0.0	50.0	0.0
NZラジアータ丸太	0.0	0.0	0.0
北洋エゾマツ丸太	—	—	—
北洋アカマツ丸太	—	—	—
北洋アカマツ原板	—	—	—

- ・米マツ丸太の価格は7月の横ばいが8月は強保合で9月は横ばい。
- ・NZラジアータ丸太は持合。

モニターからのコメント

(原木荷動)

- ・ニュージーランド丸太の入荷横ばいだが、多少需要が増加してきていると思われる。

(原木価格動向)

- ・ニュージーランド丸太は基本的に変化なし。

27年7月分

製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 4

(3) 製材品の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		27/7月	8月	9月
生産動向	米マツ製材品	△ 50.0	50.0	0.0
	NZラジアータ製材品	0.0	50.0	50.0
	北洋エゾマツ製材品	—	—	—
	北洋アカマツ製材品	—	—	—
出荷動向	米マツ製材品	0.0	△ 50.0	50.0
	NZラジアータ製材品	0.0	50.0	50.0
	北洋エゾマツ製材品	—	—	—
	北洋アカマツ製材品	—	—	—
在庫動向	米マツ製材品	50.0	50.0	0.0
	NZラジアータ製材品	0.0	△ 50.0	△ 50.0
	北洋エゾマツ製材品	—	—	—
	北洋アカマツ製材品	—	—	—

・米マツ製材品の生産は7月の減少が、8月は増加、9月は横ばい。NZラジアータは7月の横ばいが、8月及び9月は増加。

・米マツ製材品の出荷は7月の横ばいが、8月は減少、9月は増加。NZラジアータは7月の横ばいが、8月及び9月は増加。

・米マツ製材品の在庫は7月及び8月の増加が、9月は横ばい。NZラジアータは7月の横ばいが、8月及び9月は減少。

(4) 製材品の出荷価格動向 Weight. D. I.

品目		27/7月	8月	9月
米マツ平角		0.0	0.0	0.0
米マツ正角		0.0	0.0	0.0
米マツ小割		0.0	△ 50.0	0.0
北洋エゾマツタルキ		—	—	—
北洋アカマツタルキ		—	—	—
NZ梱包材(割板)		0.0	△ 50.0	△ 50.0
NZ梱包材(割角)		0.0	△ 50.0	△ 50.0
NZ土木用材		0.0	△ 50.0	△ 50.0
その他		—	—	—

・米マツ平角及び正角の出荷価格は横ばいで推移、小割は7月の横ばいが8月は弱保合で9月は横ばい。

・NZ梱包材(割板、割角とも)及び土木用材は7月の横ばいが、8月及び9月は弱含み。

モニターからのコメント

(製材品荷動き)

・ニュージーランド製材品の需要が増加してきていると思われる。

(製材品出荷価格動向)

・建築系が悪いため内地製材企業が梱包材の生産を増やしている。NZラジアータ製材品の価格が弱くなっている。